辻　地　区

カ　ル　テ

データについて

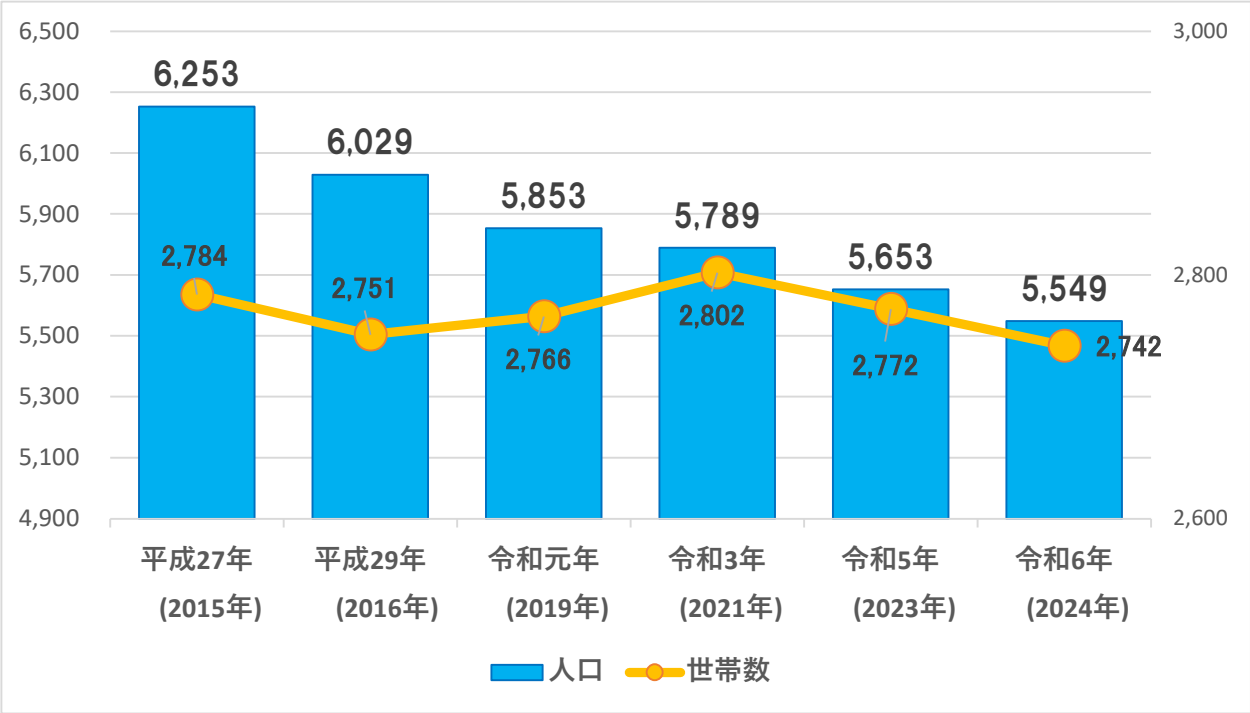
・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。

・住民基本台帳は各年の 3 月 31 日の数値、自治会加入数は各年の 4 月 1 日の数値です。

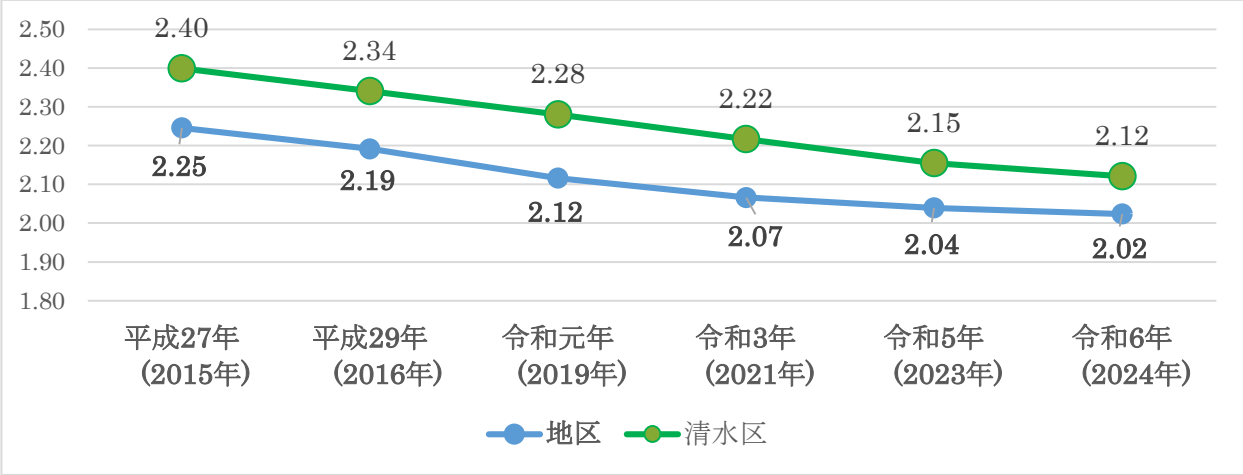
・町名は住民基本台帳を採用しているので、自治会名と一部異なる場合があります。

辻地区の人口特性　令和 6 年 3 月　5,549 人　2,742 世帯　2.02 人/世帯

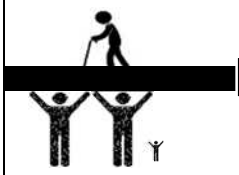
●人口・世帯数の推移



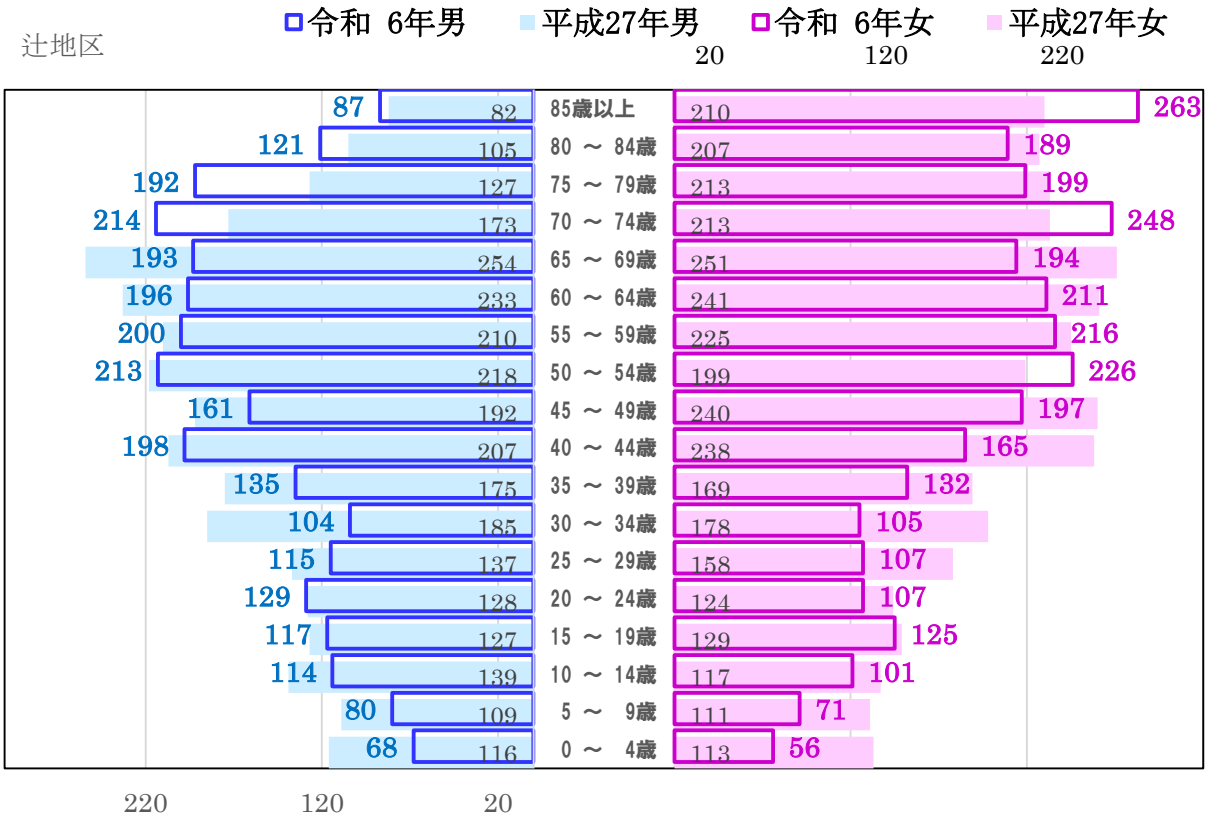
●一世帯当たりの人口推移



●65 歳以上の高齢者を支える生産年齢層（15-64 歳）

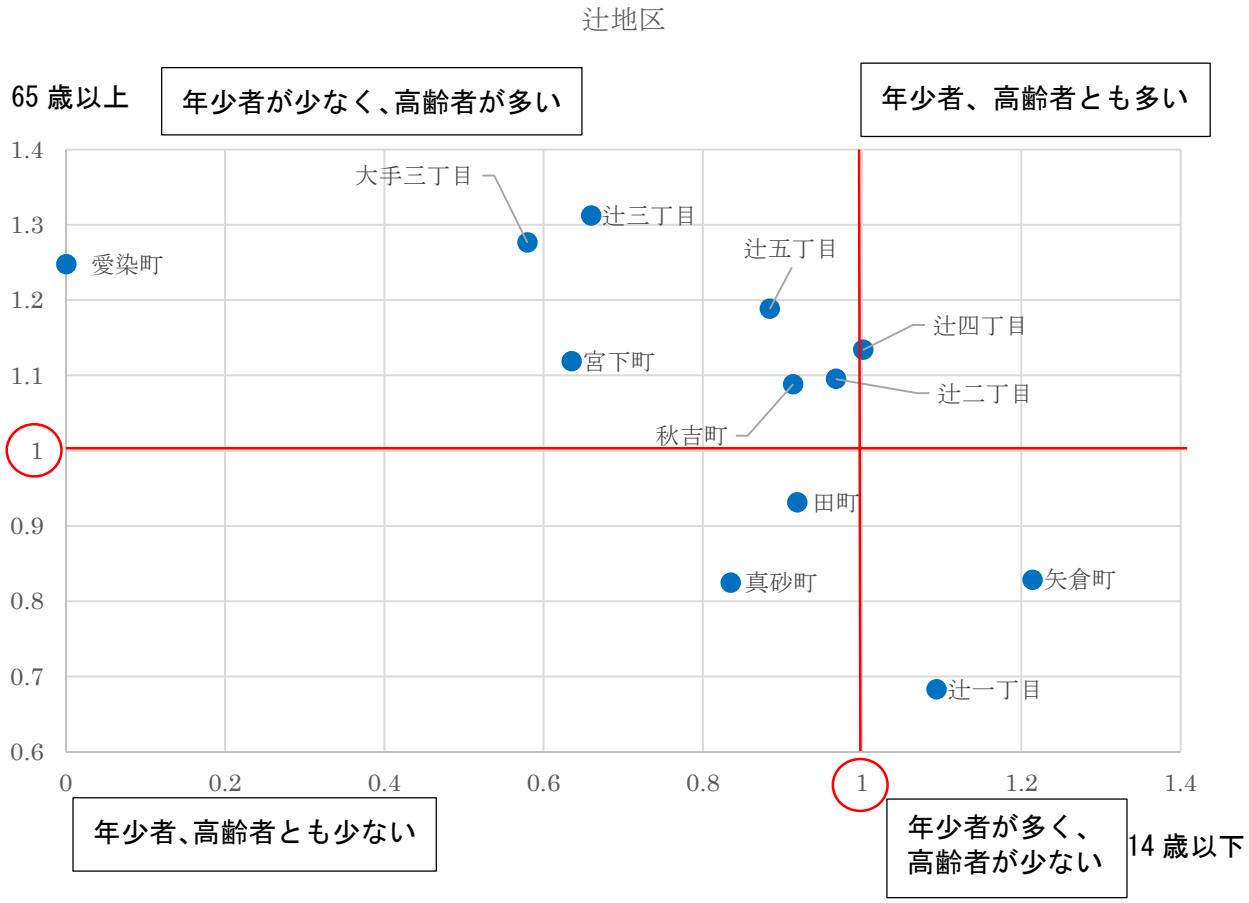
区　分	平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
地　　区	 2.02人	1.66人
静岡市	2.16 人	1.87 人
清水区	1.98 人	1.70 人

●人口ピラミッド【平成 27 年（2015 年）と令和 6 年（2024 年）の 5 歳階級別男女別構成】



●町別の 14 歳以下と 65 歳以上の割合分布（清水区の平均値を１とした場合）

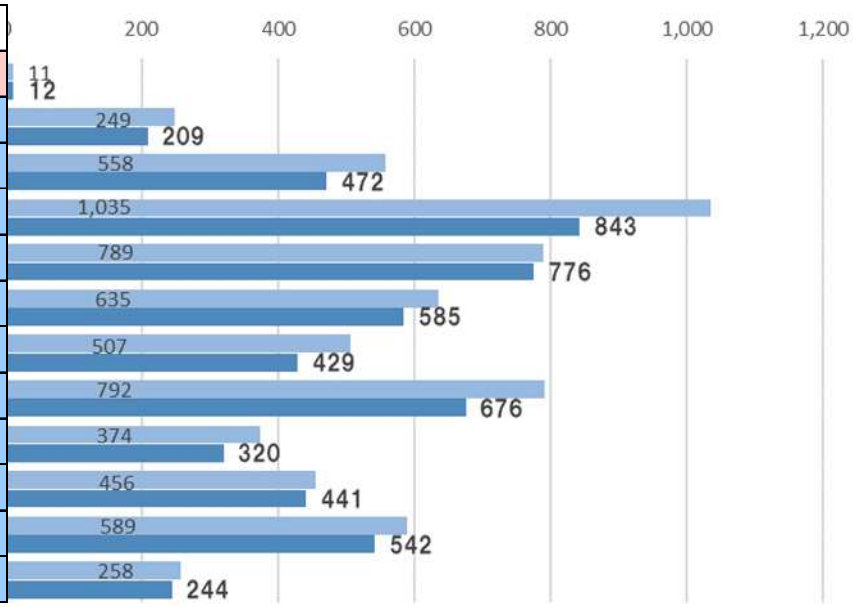
※年少者（14 歳以下）高齢者（65 歳以上）



●町別の伸び率と人口推移　【平成27年（2015年）と令和6年（2024年）の比較】

人口推移グラフ（上段平成27年　下段令和6年）

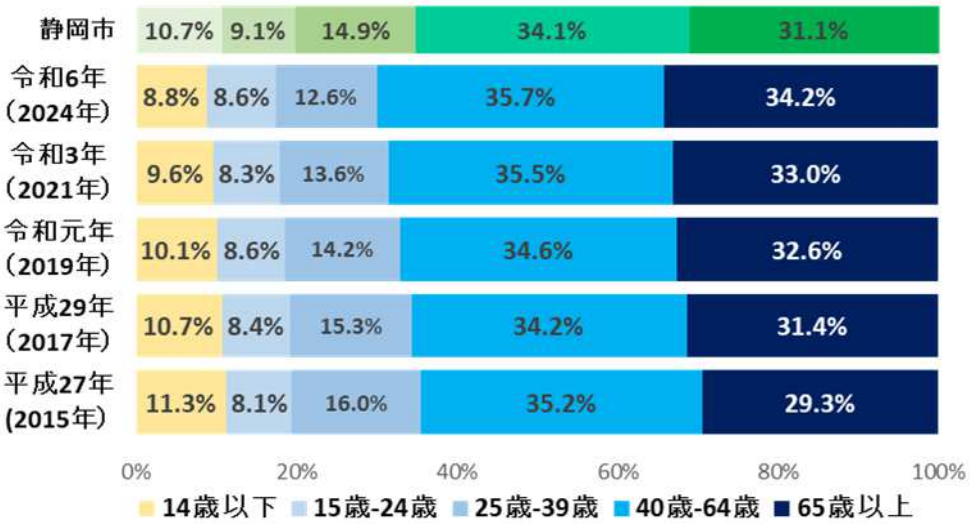
町名	伸び率
愛染町	9.1%
田町	-16.1%
真砂町	-15.4%
宮下町	-18.6%
辻一丁目	-1.6%
辻二丁目	-7.9%
辻三丁目	-15.4%
辻四丁目	-14.6%
辻五丁目	-14.4%
矢倉町	-3.3%
秋吉町	-8.0%
大手三丁目	-5.4%



		人　口	
		平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
辻地区	**−11.3%**	**6,253**	**5,549**
静岡市	−5.3%	713,564	675,610

●町別人口区分別割合

・年齢５区分別人口割合の推移



※15-24 歳は高校から社会人（大学修士課程含む）　25-39 歳は社会人（大学博士課程含む）

・令和６年人口３区分別：

市の割合より

青字　14 歳以下の割合が低い場合

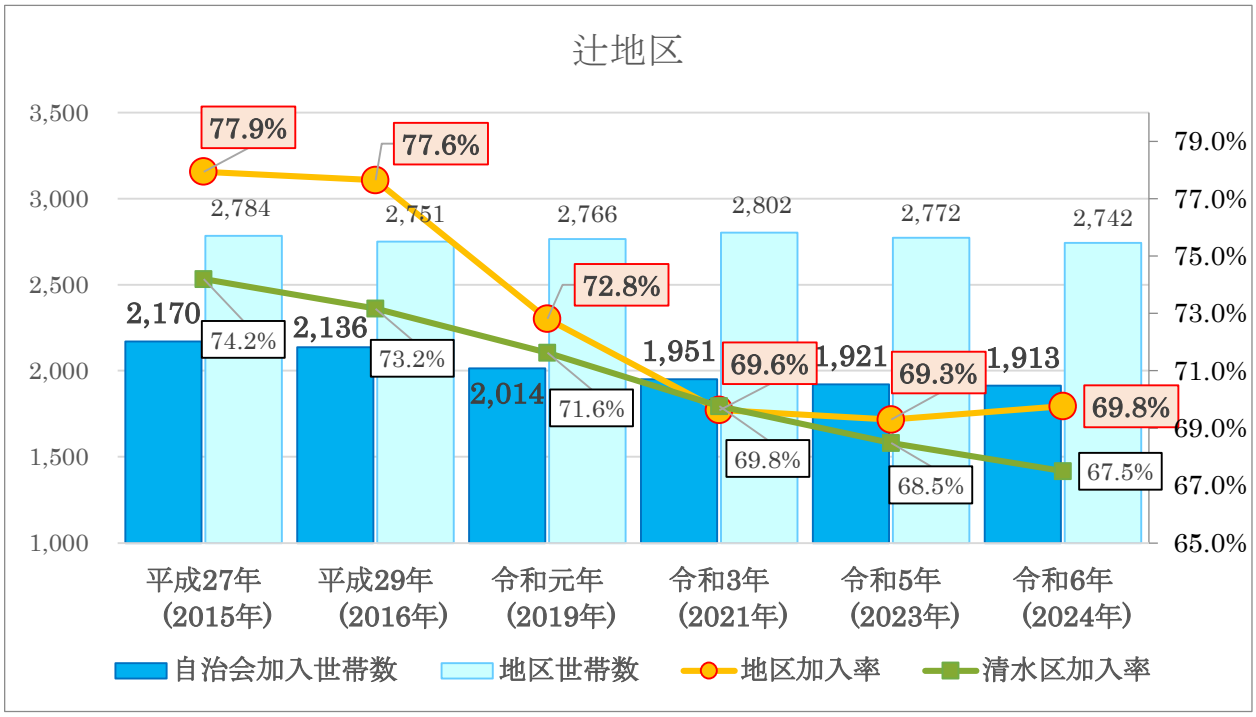
赤字　65 歳以上、75 歳以上の割合が高い場合

町 名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
愛染町	0.0%	41.7%	33.3%
田町	9.1%	31.1%	22.0%
真砂町	8.3%	27.5%	16.1%
宮下町	6.3%	37.4%	21.7%
辻一丁目	10.8%	22.8%	8.6%
辻二丁目	9.6%	36.6%	20.3%
辻三丁目	6.5%	43.8%	28.0%
辻四丁目	9.9%	37.9%	18.6%
辻五丁目	8.8%	39.7%	23.4%
矢倉町	12.0%	27.7%	16.3%
秋吉町	9.0%	36.3%	19.2%
大手三丁目	5.7%	42.6%	24.2%
辻地区	8.8%	34.2%	18.9%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

●自治会加入状況

令和６年

加入率	地　区	69.8%	加入世帯数	1,913 世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	2,742 世帯



辻地区コメント

・人口は減少傾向を示し、世帯数も減少しています。世帯人数も減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。

・人口減少地区がほとんどですが、微増している地区（愛染町）も見られます。

・令和6年の 65 歳以上を1人支える生産年齢（15 歳から 64 歳）が市の 1.9 人より少ない 1.7 人で減少傾向にあり、若い世代の地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。

・さらに、自治会の加入率は区の値 68%とほぼ同じ 70%で、停滞しています。
40 歳から 64 歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少も見られます。

辻　地　区

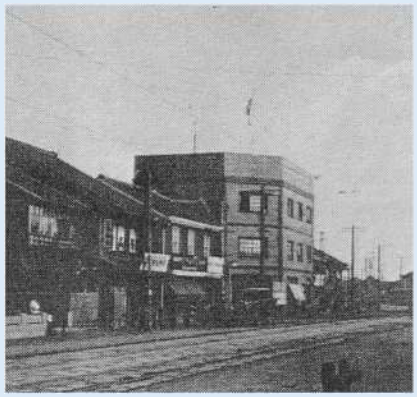
地名のゆかり

天智天皇の２年（663）、廬原君臣(いおはらのきみおみ)に率いられて百済(くだら)救援に向かった廬原軍団の武器の倉（矢倉）は、辻地区の矢倉神社付近に置かれていたと言われています。

そのころ、この辺りに当時の主要交通路と「廬原の家の湊(みなと)道」と呼ばれた海岸へ向う道とが交差する所があり、「矢倉の辻」と呼ばれていたそうです。これが「辻」という地名の起こりでしょう。

辻の最初の部落は秋葉山の南側に発達し、辻村詩によると、平安時代の天暦２年（948）に、ここが「辻村」と呼ばれるようになったということです。江戸時代になって、慶長初期に東海道が定められると、この部落は次第に街道筋へ移っていきました。

辻村から袖師に連なった「ほそいの松原」が東海道の名所となり、ここで売られた「松原せんべい」は、付近の景色とともに旅人に親しまれました。

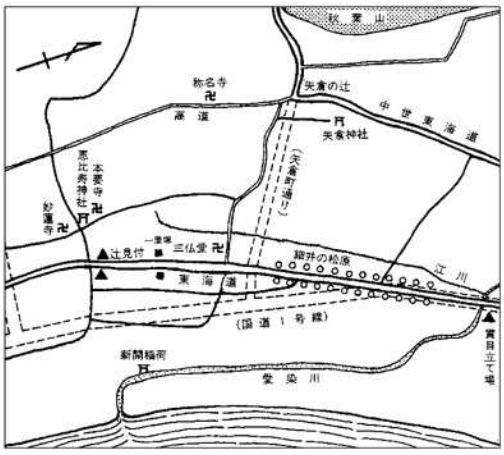


昭和初期の仲浜町

細井の松原

辻地内の東海道は、見付から袖師村境まで約750ｍの道程ですが、秋葉道入口を過ぎる辺りまでは町屋が並び、茶屋、綿打ち屋、雑貨を商いする店が点在していました。やがて人家は疎になり、鈴木島の愛染川辺りまでの450ｍは松並木が続いていました。この松並木は西側に 細い江川が並行して流れていたことから、「細井の松原」と呼ばれました。

東海道には松並木は多いが、とりわけ、細井の松原はうっそうとした松並木が続き、東海道の名所の一つに数えられていました。この松原は戦前まで残っていましたが、昭和19年、松根油生産のため伐採され、今はその名残を全くとどめていないのが残念です。



江戸時代の東海道と辻村

忠僕孝子の碑

辻小学校の校庭南隅に、昭和７年度同校高等科卒業生が記念に建てた「忠僕孝子節婦之石碑」があります。

忠僕の長坂三右衛門さんは、袖師村西久保に生まれ、辻村長さんに仕え、どんな辛い仕事も嫌わず進んでやり、忠実に働き、奉行より賞められました。

孝子の中田源七さんは、嘉永年間に辻村に住む父親の飴菓子行商の手伝いを非常に従順に努め、常に節約し蓄えたお金で道すがら父の好物を買い求め、食膳に据えることを唯一の楽しみにしていました。

節婦の山本くらさんは、幼少より資性温厚で慈悲心に富み、友愛の心厚く、妙齢の頃より佛書を克く読み、徳川幕府の末、名主役の父が不在の際にも文書を写して廻し公用に誤りの無いようにしました。

いずれも、当時の鏡と褒め讃えられたものです。

辻小校内の碑

久能山東照宮の道程塔

東照宮の道程塔

清水駅前ロータリーに久能山東照宮への里程を示した石塔が建てられています。この塔は、大正４年４月「徳川家康公三百年祭」に当り、旧徳川藩士族同胞会が中心となって建立した東照宮への道程塔です。

白い御影石、直線で構成された台座の下部には銅板に社殿が画かれ、中央正面に東照宮と深く彫られた文字、塔上部は球形で葵の紋を浮上し上に伸びる飾り柱などスマートなデザインは、70余年の風雪と戦火を超えて、今なお立派な芸術作品であります。

「従是貳里三十丁」は最初建てられた旧江尻駅前からの里程。塔はその後江尻踏切際に移されましたが、昭和51年に現在地に移設されました。

日本武尊と矢倉神社

現在の矢倉神社

日本武尊は景行天皇の皇子であり、大和朝廷が国土統一を成し遂げた折の英雄と伝えられています。九州で熊襲を征討した後、東国平定に出向き、蝦夷を服従した帰途、伊勢で亡くなっています。日本書紀によると、駿河に立ち寄った日本武尊は賊に欺かれ、野中で火に囲まれてしまいました。そこで叢雲剣で草を薙ぎはらい、燧で向火をつけて難を逃れたという「草薙伝説」が残されています。

辻の氏神様として信仰されている矢倉神社の起源は、この「草薙伝説」との関わりがあると伝えられています。社伝では、仲哀天皇の御代、日本武尊と景行天皇の二柱を祀り、社は日本武尊が駿河平定の際、武器庫を設置した縁の地に建立されたと伝えられています。しかし、４世紀後半に比定される仲哀天皇の時期には辻の集落はまだ存在せず、その創建の時期については疑問が残るのです。

「掘り出し地蔵」

昔、辻村に多念山称名寺という寺がありました。いつのころからか、廃寺になってしまいましたが、一本の老松だけが、寺の跡にその名残をとどめていました。

江戸時代のある夜、村の名主杉山弥兵衛さんの夢枕に、お地蔵さんが現れて、「私は称名寺の松の根元に埋められたままでいるが、ぜひ掘り出して祭ってくれ。そうしたら、村人を悪い病から守ってやるし、豊作にもしてやろう」と告げたのです。

翌朝、弥兵衛さんが村人と共に松の根元を掘ってみると、お告げのとおり小さな石のお地蔵さんが出てきたのです。

村人はそこにお堂を建て、このお地蔵さんを祭ったところ、近郷近在はもとより、遠い所の人たちからも「称名寺の掘り出し地蔵」と呼ばれて、信仰されるようになったということです。その松も、明治初年のころに枯れてしまい、昔の面影をしのぶものは何一つ無くなってしまいました。